

**【健康長寿の三重へ！県民参加の「三重とわか国体・三重とわか大会」と
「三重とわか健康マイレージ事業」について】**

① 「三重とわか国体・三重とわか大会を契機とした地域スポーツの推進について」

県民参加を推進。

一人でも多くの県民が「自分自身の“とわか”への挑戦」、つまり国体を契機にいつまでも若さを保つ事を目標として3年後を目指すことが出来れば、選手・関係者と共に、「支える」県民のモチベーションアップに貢献できる！

そのような中、今年度開始が予定されている「県の健康マイレージ事業」に“とわか”との冠が付き、「三重とわか国体・三重とわか大会」と「健康長寿」への県民の思いがつながった。

今回の事業は県が発行する「三重とわか健康応援カード」で協力店による特典やサービスが受けられる事により、市町の健康マイレージ・ポイントなどの事業をサポートする形で導入されている。

これまで県内各市町の公明党議員からも県での事業化を期待する声が数多くあった。

県議会公明党会派としても、2年前に高知県の「高知家（け）・健康パスポート」、さらに先月には健康マイレージ先進県であり、健康寿命日本一を目指している静岡県の取組を調査。共通の課題は、健康づくりに対する“きっかけ”をどうやって作っていくかという事。

今回の「三重とわか健康マイレージ」は、“とわか”という冠によって県民の皆さんの健康づくりに大きな“きっかけ”が作られ、その乗効果は大きい。

同様に“とわか”を記念した県内のスポーツ大会・イベント等の開催で機運を盛り上げていく事は非常に効果があり、課題でもある「地域スポーツの推進・活性化」につなげていく事が重要。

【答弁要旨】

「県民力を結集した大会」を目指す。県民の皆さんにスポーツを「する」「みる」「支える」といった関わりをもって頂きたい。

県内のスポーツイベントや協議会に対し、例えば「三重とわか国体・三重とわか大会開催記念」といった冠名称を付けることで両大会の周知と共に、スポーツへの関心を高める効果があると考えます。

県準備委員会の広報・県民運動専門委員会では有識者の意見を聴き、市町やスポーツ・レクリエーションに関する団体の声も聴きながら、取組を推進していくことを検討する。

地域スポーツの推進では、「する・みる・支える」との観点からスポーツ実施率の向上を図っていくとある。そこで「支える」側として、例えば少年団やスポーツクラブに入っている子ども達を支えている保護者にも着目してはどうか。

単なる送迎や応援だけではなく、玉拾いから始まり、グラウンド設営・整備や審判など、一定程度の運動といえる。

またチームの監督・コーチなど指導者やスタッフの運動量はかなりのもの。

こういった子供達を「支える県民」も大いに巻き込んで頂いて、「とこわか国体・とこわか大会」を支える“きっかけ”を作って欲しい。

もう一つ「支える」県民の活動の紹介。

四日市の中央緑地公園内で緑化作業をしているシルバーボランティアの方のお話。

「前回 43 年前の国体を良く覚えている。だから今回の国体も本当に楽しみ。少しでも今回の国体をサポートしたいという思いから緑化のボランティアをさせてもらっている」

こういった「支える」皆さんの活動を忘れてはならない。

② 次は県と市町の健康マイレージ（ポイント）の連動について

今回の事業は市町それぞれの取組みをサポートする形で制度設計されているが、例えば県が主催するスポーツイベントや健康・福祉をテーマとしたセミナー、またUDアドバイザーや認知症サポーターなどの育成講座・活動などの取組が市町のマイレージ制度とも連動、つまりポイントの対象になるのかどうか、この点は非常に重要で、県が直接的に市町の取組みを応援できる部分である。この点どうか。

【答弁】

○三重とこわか健康マイレージについて

（「三重とこわか健康マイレージ事業」の目的について）

1 「三重とこわか健康マイレージ事業」は、県民の皆さんの健康づくりを社会全体で応援する環境づくりを進める事業。

（市町の現状）

2 すでに、一部の市町においては、住民の健康づくりを支援するために、特定健康診査やがん検診の受診、健康教室への参加などに対してポイントを付与し、特典が受けられる、独自のインセンティブ事業が実施されている。

（市町との連携について）

3 県としては、「三重とこわか健康マイレージ事業」を県民総参加による健康づくりの取組とするため、市町の事業で一定のポイントを獲得した方に「三重とこわか健康応援カード」を交付し、マイレージ特典協力店からさまざまなサービスが受けられるように、県と市町（しちょう）の事業を連動させることとしている。

また、市町等が提供する取組メニューに加えて、県が開催する健康づくりに関する研修会や、各種スポーツ大会などの事業も市町のポイントが付与される仕組みとしたいと考えており、今後、市町との調整を進めていく。

③ 健康経営について

今回の事業では「マイレージ取組協力事業所」との位置づけがある。
市町との連携と併せて、このような協力事業所となり得る企業・団体との連携も重要。
今回インターハイでは200社を超える企業・団体から高校生が支援を頂いている。
いま企業・団体にとってもこのような気運が高まってきている。さらに「健康経営」という視点が注目されてきている。

※健康経営とは

従業員の健康の維持・増進が企業の生産性や収益性の向上につながるという考え方に立って、経営的な視点から、従業員の健康管理を積極的に実践する取組とされております。健康診断はもちろん、勤務間インターバルや、メンタルヘルスなど「働き方改革」を進める上でも非常に重要。

「マイレージ取組協力事業所」にとっても重要な視点である健康経営と「三重とこわかマイレージ」の推進に向けての現状の取組みについて確認したい。

【答弁】

(健康経営の考え方)

- 1 健康経営は、従業員の健康増進のための取組が企業の生産性や企業価値を高め、将来的に企業の収益性を高める投資になるという考えのもと、経営的な視点で従業員の健康管理に取り組みというものであり、雇用経済部と連携して取り組んでいる。
労働人口の減少が予想される中、健康経営という考えは重要な視点だと認識している。

(事業所と連携した健康づくりの取組の推進)

- 2 本県では、少子高齢化の進展などに伴う、社会環境や疾病構造の変化の中で、子どもから高齢者まで、全ての県民が健やかで心豊かに生活できるよう、「三重の健康づくり基本計画」に基づき、平均寿命の伸びを上回る健康寿命の延伸をめざし、さまざまな取組を進めている。
事業所と連携した取組としては、社員食堂を持つ企業と減塩メニュー等の導入を進めるなど、従業員の食生活改善による健康増進を図っている。
また、「三重とこわか健康マイレージ事業」においても、従業員等を対象に健康づくりの取組を行う「マイレージ取組協力事業所」を募集しているところであり、こうした取組を通じて従業員の健康増進をさらに進めていきたいと考えている。

(健康経営の推進)

- 3 今後も、事業所における健康経営を後押しできるよう、事業所と連携した健康づくりの取組をより一層推進していきたいと考えている。

マイレージ事業を通して県が「健康経営」の視点を県内に広げて欲しい。
三重とこわか健康マイレージはスポーツの推進、働き方改革など、重要な課題とも関連性が深く、さらには県だからこそ推進できる取組もあるので期待したい。

最後に地域のラジオ体操の開催を長年に渡り推進されている方のお話を紹介。

「高齢者が健康を維持する事は医療費や介護費の抑制につながる。そういった思いで、日頃から活動をしている。社会を支えている若い人たちと共に、高齢者も健康を維持することで、自ら社会を支えようという思いをもっていることを知って欲しい。」

三重とこわか国体の総合優勝と併せて、幸福実感を始め、健康寿命、その延伸、あるいはマイレージ参加者数など、何かで日本一！を目指すことで、「三重とこわか国体・三重とこわか大会」のレガシーを県内外に発信できることを期待したい。